

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 こっこと		
○保護者評価実施期間	2026年3月1日		2026年3月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2026年3月1日		2026年3月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎回の利用後にこどもの様子を保護者と伝え合い、共通理解ができている。職員間で細かく様子を共有することで児童の特性を分析・理解。児童発達管理者が作成した目標に合わせて、どのように支援していくかを職員間で統一することで毎回の親御様への申し送りの細かさに感謝していただいている。	子どもたちの様子を関わりながら観察することで、細やかな部分まで保護者の方に伝えることができている。いつもとは違う様子があった場合には個別経過観察記録の特記事項や、日報の注意事項に記入。その日に出勤していない職員にも共有を行うことで、過去の記録と照らし合わせて毎回の申し送りで伝えることができている。	児童発達支援から放課後等デイサービスへの移行や、新規利用者の増加により児童の人数が年々増えている。1人の児童だけを見るのではなく、視野を広げて支援していけるよう、児童指導員の育成を行っていききたい。今後も保護者の方に安心してご利用していただけるよう、信頼関係を築いていきたい。
2	利用者の好きな音楽(アニメやゲームの曲など)を活動や自由時間の即興音楽に取り入れることで、お子様の自発性や意思の伝達などを促すことができている。たくさんの楽器があることで、お子様の気分に合わせて提供することができている。	季節の曲や様々なジャンルの曲を弾くことで、子どもたちに音楽へ興味を持つことができるよう意識的に行っている。子どもたちからのリクエストに答えるなかで、順番を守る・お願いの言い方などのSSTを行っている。児童発達管理者による半年に1回の面談時に最近ハマっていることなどをお伺いし、音楽療育に繋げている。	子どもたちがピアノを自発的に弾く姿が増えてきているため、ドレミシールなどを使い簡単に弾ける楽譜など用意できるとよい。大きな太鼓を2Fに常備することで、急な即興演奏も盛り上がるため今後ますます太鼓を出せる場所に設置する。
3	ホームページやSNSを活用し、こどもの様子を発信している。連絡帳のみでは伝えることが難しいが、こども達が活動に参加している様子を写真であげることによって、保護者の方にこどもの楽しんでいる姿を見ることができている。去年の音楽フェスに参加した時には演奏動画を発信した。	活動以外にも普段過ごしている様子や、自由時間に楽器を楽しんでいる姿を撮影し発信している。顔出しの了承をいただいている方のみ表情がわかるように撮影を行い、どんな様子で過ごしているのかわかるようにしている。顔出しの許可が出なかった場合は、手元などを写し何をして過ごしているか、どんな楽器を使っているのかわかるよう工夫している。	児童の顔写真の取り扱いに気を付け、今後もこっことでどのように過ごしているのかを発信していきたい。イベントや活動内容をわかりやすく見つけられるよう工夫していきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	法令上適切ではあるが、児童の成長に伴い活動室が狭くなっている。	児童発達支援から放課後等デイサービスに移行する児童や、新規の児童の増加により1日の利用者数が増えている。活動で身体運動を行う際には怪我をしてしまう可能性がある。半日利用の日には職員の休憩が必要になるため、職員人数が少なくなる場面がある。	パーティションを使い安全な空間を作る必要がある。どうしても狭いときには1Fの小活動室を使用し、分散して利用してもらうなど工夫が必要。現在もボール投げ・蹴りは禁止にしているが、危険なため今後も行わないよう促す。身体運動を行う際には部屋を広くし、人数を分けて行うなど事前に考える必要がある。職員が少ないときには卓上課題を提示するなど工夫する。
2	家族も参加できる研修会などの広報ができていない。	研修会の広報を行うことができていない。	開業時は研修会を開催したことがあるが、参加する保護者がいない状態だったため家族が参加できる研修会を実施していなかった。10名弱の参加者の居る懇親会の中に研修会を取り入れるなどし、参加しやすい研修会を計画する
3			